



予測不能の未来!だからこそできること

よく私が口にする、「未来からの留学生」という言葉ですが、これは私が担任の時に尊敬していた校長先生が口にされていた言葉です。「子供たちは未来からやって来た留学生です。だからこそ、大切に未来社会に帰しましょう!」と話

消えそうな仕事	消える確率
電話マーケティング	99%
スポーツの審判	99%
モデル	98%
カフェ店員	97%
事務員	96%
ネイリスト	95%
タクシードライバー	89%

残るだろう仕事	消える確率
小学校教員	0%
看護師	1%
獣医	4%
救命救急士	5%
グラフィックデザイナー	8%
ソフトウェア開発者	13%
消防士	17%

されていました。さて、子どもたちが社会人として活躍する近い未来、今では予想できない世の中になっていると、学者は唱えています。英オックスフォード大学でAI(人工知能)などの研究を行うマイケル・A・オズボーン准教授らは、20年後までに人類の仕事の約50%がAIないしは機械によって代替され消滅すると予測しました。

一方で私たちは、「AIはけっして万能でない」ということも意識しておく必要があります。例えば、これまでにない課題を解決する仕事(=過去のデータがないもしくは不十分な仕事)や、数値化できない人間の感性や経験に基づく創造的なアイデアを生み出す仕事については不得意です。

AIが何か結論を出した時、それは「考えた」のではなく、あくまでデータによる計算結果です。AIとの共存社会がやってくる中で、子供たちが活躍していくためには、人間にしかできない困難な問題に主体的に対処できる力を育成することが重要です。手前味噌ですが、本校で取り組んでいる「道德教育」は、予測不能な社会だからこそ、強みを発揮すると考えています。例えば道德科の授業の中で、一人一人が帯西レンジャーを心に投影しながら価値観を手に入れ、価値観に裏打ちされた行動をとるようになります。また、その価値観を互いに共有し合いながら、目標の達成のために方法や手段などを全員で考え、折り合いをつけながら話し合い、自分の役割や責任を果たすとともに、決まったことを協力して実践し、学級・学校文化を創造していきます。このように、「心」のエネルギーを育む「道德科」と、「行動」のエネルギーを育む「特別活動」を中心に据え、道德教育を充実させていくことは、子供一人一人が活躍し、未来を創る担い手となることに繋がると信じています。

子供たちが未来社会で活躍するということは、私たち大人の老後も明るい未来となり得るのです。